

製品名: CD11b ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08198**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:50-1:200, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:10000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	ITGAM CD11B CR3A Integrin alpha-M (CD11 antigen-like family member B; CR-3 alpha chain; Cell surface glycoprotein MAC-1 subunit alpha; Leukocyte adhesion receptor MO1; Neutrophil adherence receptor; CD antigen CD11b)
別名	
遺伝子 ID	3684.0
SwissProt ID	P11215
免疫原	アミノ酸範囲 280~360 のヒトタンパク質からの合成ペプチド

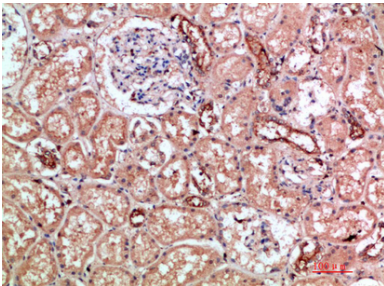
背景

インテグリンサブユニット α M (ITGAM) ホモサピエンス この遺伝子はインテグリン α M 鎖をコードします。インテグリンは、 α 鎖と β 鎖からなるヘテロ二量体の膜貫通タンパク質です。この1ドメインを含む α インテグリンは、 β 2 鎖 (ITGB2) と結合して、マクロファージ受容体1 (「Mac-1」) または不活性化 C3b (iC3b) 受容体3 (「CR3」) と呼ばれる白血球特異的インテグリンを形成します。 α M β 2 インテグリンは、刺激を受けた内皮細胞への好中球および単球の接着、ならびに補体被覆粒子の貪食に重要です。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見つかっています。 [RefSeq 提供、2009年3月]、疾患: ITGAM の遺伝的変異は、全身性エリテマトーデス 6型 (SLEB6) [MIM:609939]の感受性と関連付けられています。全身性エリテマトーデス (SLE) は、慢性的な炎症性で、しばしば発熱を伴う結合組織の多臓器疾患です。主に皮膚、関節、腎臓、漿膜に発症します。自己免疫系の制御機構の不全を示すものと考えられています。、ドメイン: インテグリン1ドメイン (挿入) は VWFA ドメインです。1ドメインを持つインテグリンはプロテアーゼによる切断を受けません。、機能: インテグリン α -M/ β -2 は、単球、マクロファージ、顆粒球の様々な接着相互作用、および補体被覆粒子の取り込みに関与しています。補体第3成分の iC3b フラグメントの受容体である CR-3 と同一です。C3b の R-G-D ペプチドを認識すると考えられます。インテグリン α -M/ β -2 は、フィブリノーゲン、第 X 因子、ICAM1 の受容体でもあります。フィブリノーゲン γ 鎖の P1 および P2 ペプチドを認識します。、類似性: インテグリン α 鎖ファミリーに属します。、類似性: 1つの VWFA ドメインを含みます。、類似性: 7つの FG-GAP リピートを含みます。、サブユニット: α サブユニットと β サブユニットのヘテロダイマー。 α -M は β -2 と会合します。、組織特異性: 主に単球と顆粒球に発現します。、

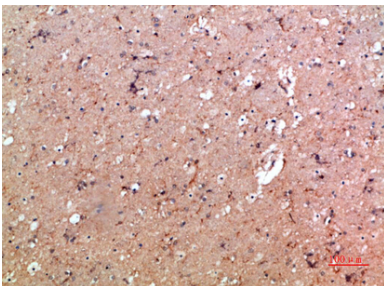
研究分野

細胞接着分子 (CAM)、造血細胞系統、白血球の内皮透過移動、アクチンと細胞骨格の調節、

画像データ



パラフィン包埋ヒト腎臓の免疫組織化学分析、抗体は 1:200 に希釈された



パラフィン包埋ヒト脳の実験室免疫組織化学分析、抗体は 1:200 に希釈された